



一般社団法人 システムイノベーションセンター
2021年度定時社員総会

議案書

開催日時 2022年3月29日（火） 11:00～12:00

開催場所 東京都新宿区西新宿8丁目17-1 住友不動産新宿グランドタワー5F 会議室
および、オンライン出席を併用

議 題

- 1) 役員交代の件 【普通決議事項：第1号議案】 p. 3
- 2) 2020年度 事業報告及び決算の承認の件 【普通決議事項：第2号議案】 p. 4
(含：2021年度監査報告)
添付資料
 - 2a) 2021年度事業報告 p. 5
 - 2b) 2021年度決算書 p. 7
 - 2c) 決算報告書(貸借対照表) p. 8
 - 2d) 決算報告書(正味財産計算書) p. 9
 - 2e) 決算報告書(財産目録) p. 11
 - 2f) 決算報告書(附属属明細書) p. 12
 - 2g) 監査報告書 p. 13
- 3) SIC次期中長期計画、および、2022年度事業計画及び予算の報告の件
【報告事項】 p. 14
添付資料
 - 3a) SIC次期中長期計画案
 - 3b) 2022年度事業計画 p. 14
 - 3c) 2022年度予算書 p. 17
- 4) 規定改訂の件 【報告事項】 p. 18
添付資料
 - 4a) SIC分科会既定 p. 18
- (附) システムイノベーションセンター 2021年度現況 p. 19
 - a1) 会員の状況 p. 19
 - a2) 正会員 p. 19
 - a3) 学術協議会 p. 20
 - a4) 実行委員会 p. 21
 - a5) 人財育成協議会 p. 23
 - a6) フォーラム等の開催 p. 23
 - a7) ニュースレター発行 p. 24
 - a8) 分科会活動 p. 25

【第1号議案】:役員交代の件

定款22条、および、25条に基づき、下記役員の中の2名の理事の交代への承認を求める。なお、交代理事の任期は、前任者の任期の満了までの期間とする。

一般社団法人システムイノベーションセンター 2022年度役員（理事・監事）				
				2022/3/29
選任	区分	氏名	所属	役職等
継続	理事	齊藤 裕	ファナック株式会社 独立行政法人情報処理推進機構(IPA)	顧問 デジタルアーキテクチャ・デザインセンター長
継続	理事	木村 英紀		東京大学名誉教授 大阪大学名誉教授
継続	理事	松本 隆明	元 独立行政法人情報処理推進機構	元 顧問
継続	理事	浦川 伸一	損害保険ジャパン株式会社	取締役専務執行役員 CIO
理事を退任		西川 英孝	元 NTTコミュニケーションズ株式会社	
交代で新任		赤堀 英明	NTTコミュニケーションズ株式会社	ビジネスソリューション本部 スマートワールドビジネス部 スマートファクトリー推進室 室長
継続	理事	Gill Pratt	Toyota Research Institute, Inc.	トヨタ自動車株式会社 Chief Scientist and Executive Fellow for Research Toyota Research Institute, Inc. CEO
継続	理事	島田 太郎	株式会社 東芝 (兼)東芝デジタルソリューションズ 株式会社	執行役上席常務 取締役社長
継続	理事	谷崎 勝教	株式会社 三井住友銀行	専務執行役員
継続	理事	服部 正太	株式会社 構造計画研究所	取締役 代表執行役会長
継続	理事	人見 光夫	マツダ株式会社	シニアイノベーションフェロー
理事を退任		中川路 哲男	元 三菱電機株式会社	
交代で新任		水落 隆司	三菱電機株式会社	執行役員 ビジネスイノベーション本部 副本部長
継続	理事	古田 英範	富士通株式会社	代表取締役副社長 COO, CDPO
継続	理事	森 敬一	KDDI 株式会社	取締役執行役員専務 ソリューション事業本部長
継続	理事	久間 和生	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	理事長
継続	理事	青山 和浩	東京大学大学院工学系研究科	人工物工学研究センター 教授
継続	監事	船橋 誠壽	特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合	(元) 理事
継続	監事	白井 俊明	(元) 横河電機株式会社	(元) シニアアドバイザー

【第2号議案】:2021年度事業報告、および、同決算書の承認の件

定款第40条にもとづき、2021年度の実業報告に関わる事項、および、決算の報告に対し、2021年度監査報告にもとづき、承認を求める。

添付資料：

- 2a) 2021年度事業報告
- 2b) 2021年度決算書
- 2c) 決算報告書(貸借対照表)
- 2d) 決算報告書(正味財産計算書)
- 2e) 決算報告書(財産目録)
- 2f) 決算報告書(附属明細書)
- 2g) 2021年度監査報告書

2a) 2021年度事業報告

1. 活動の概況

今年度も昨年度に引き続きコロナ禍による影響を大きく受け、実行委員会、分科会活動、人材育成協議会等のほとんどの活動はオンラインを中心とした形式で実施した。SICフォーラム／産学交流会については、SICフォーラムは有識者による講演が主体であることからすべてオンライン形式で実施したが、産学交流会は産学双方によるディスカッションが主体であることから昨年度はほとんど実施できなかったが、今年度は現地とオンラインの併用によるハイブリッド形式での開催を実施した。

また、本年度のトピック的な活動として、企業の経営層への意識改革を促す活動として経営層向けに「新しい山に登ろう」をテーマとした経営者研修講座をハイブリッド形式で開催し、経営層の方々を中心に35名の参加者を得た。

さらに本年度は、今般木村副センター長がIEEE Control Systems Award 2021を受賞されたことを記念して、横幹連合と共催で一般向けに特別講演会を実施し、270名に昇る多数の方の参加を得ることができた。

2. 実行委員会の活動

昨年度に引き続き以下の日程で毎月1回計11回の委員会をオンラインで開催した。

- 1月26日、2月24日、3月24日、4月26日、5月28日、6月22日、7月26日、
- 9月8日、10月6日、11月10日、12月1日

実行委員会では、SICフォーラム、産学交流会、研修講座、受賞記念講演会等のイベントの企画と進め方について議論を行った。特に、今年度の重要なトピックイベントである経営者研修講座のシナリオ作りや経営層への集客依頼方法等について委員の協力を得て盛況のうちに開催することができた。

分科会の活動状況については、分科会主査や事務局担当の出席のもと適宜状況を報告いただき、委員間で状況を共有するとともに、今後の分科会の進め方等についても議論を行った。また、中期と期末にはSIC事務局から予算の執行状況と執行予定を報告するとともに、円滑な予算執行に向けて委員間で議論を行った。

3. 分科会の活動

優れた社会システムのデザインを描くことを目的として、昨年度から継続して以下の3つの分科会が活発な活動を行った。

- ・「システムヘルスケア分科会」（今年度9回開催）
- ・「システムモビリティ分科会」（今年度5回開催）
- ・「デジタルエコノミー分科会」（今年度7回開催）

さらに今年度は新たな分科会として「流通とシステム化分科会」が立ち上がり、9月30日にキックオフ、11月5日に第2回会合を実施して活動を本格化した。

4. 人材育成協議会の活動

人材育成協議会は今年度もオンラインにより8回開催した。また、人材育成協議会主催のもと以下の8回の研修講座を実施した。

- ・「システムイノベーションのケーススタディ講座（JR東日本の東京圏輸送管理システム（ATOS）の開発・第1回）」1月23日
- ・「システム構築のための最適化講座 ～ソルバーを用いた実践力養成編～」3月27日
- ・「システム構築のためのネットワーク科学」6月2日
- ・「表現モデリング入門講座」6月25日
- ・「システム構築のためのAI講座」7月9日・10日
- ・「システムイノベーションのケーススタディ講座（R東日本の東京圏輸送管理システム（ATOS）の開発・第2回）」8月27日・28日
- ・「システム構築のための制御講座」10月22日
- ・「経営者研修講座 ～新しい山へ登ろう～」10月22日

5. 戦略委員会の活動

SICの総合的、長期的な活動の指針ならびに中長期的な将来構想を策定するための「戦略委員会」を、理事会直下の組織として今年度新たに創設した。今年度は、以下

の日程で3回開催し、SIC活動の現状認識と課題、今後の方向性について活発な議論を行った。

4月7日、7月13日、11月2日

6. SIC フォーラム

ほぼ2か月に1回のペースで今年度は6回開催した。

- ・ 第1回（1月19日） 人見 光夫 様（マツダ株式会社）
【タイトル】 選択と集中による開発革新 ～一番ピンを見つける～
【受講者数】 49名
- ・ 第2回（3月15日） 島田 太郎 様（株式会社東芝）
【タイトル】 東芝のデジタル戦略 ～CPS企業への道～
【受講者数】 49名
- ・ 第3回（4月28日） 宮田 一雄 様（元富士通株式会社）
【タイトル】 経営をシステム思考で考えてみる ～あいまいな時代だからこそ、巨人の肩の上に立ち科学的マネージメントを～
【受講者数】 60名
- ・ 第4回（7月5日） 西岡 靖之 先生（法政大学）
【タイトル】 デジタル化した組織知の共有と再生産
【受講者数】 55名
- ・ 第5回（8月3日） 倉橋 節也 先生（筑波大学）
【タイトル】 多層社会システムと新型コロナウイルス感染症モデル
【受講者数】 31名
- ・ 第6回（10月26日） 森 欣司 先生（早稲田大学）
【タイトル】 コンセプト指向イノベーション：自律分散システム ～事例：JR東日本ATOS（自律分散輸送管理システム）～
【受講者数】 35名

7. 産学交流会

今年度は2回開催した。

- ・ 第1回（6月27日） 河合 亜矢子 先生（学習院大学）
【タイトル】 今そこにある崖 ～小売り流通サプライチェーンの構造改革が日本の生産性向上の鍵～
【開催趣旨】 「流通とシステム化分科会」新設に向けて、設立に至った背景と解決すべき課題について主査の河合先生より解説を行った
- ・ 第2回（11月15日） 酒井 香世子 様（損保ジャパン大学）、鳥居 和功 様（日立アカデミー）、石澤 直孝 様（日本郵船NYKデジタルアカデミー）、川田 誠一

先生（東京都立産業技術大学院大学）、青山 和浩 先生（東京大学）

【タイトル】 「企業内大学」をめぐって

【開催趣旨】 ここ数年来「企業内大学」（Cooperate University）を設置する動きが産業界では顕著になっており、その重要性も増大しつつある。そこで、「企業内大学」組織を持つ3企業からパネラーを招聘し「企業内大学」での取り組み、大学側からは社会人育成を意識した教育の取り組みを報告していただき、その後パネルディスカッションを行い、システム化人材育成という観点から「企業内大学」の現状を産学で共有することを目的に企画した。

8. 特別講演会

木村副センター長がIEEE Control Systems Award 2021を受賞されたことを記念して7月21日に特別講演会を開催した。本賞は、制御システムの技術や実践に関して世界的に多大な貢献をされた人物に毎年1名に贈られる極めて権威のある賞であり、木村先生は制御システムに関するsynthesis理論とその産業への応用についての貢献が認められてアジア人として初めての受賞者に選ばれた。そこで、木村先生の受賞を讃え、システムイノベーション推進への想いを共有すべく一般向けに受賞記念講演会を開催した。

【タイトル】 ホモ・システマの時代：システム史観の提案

【共催】 横断型基幹科学技術研究団体連合

【参加者】 270名（申込者320名）

9. 広報活動

「SICニュースレター」を毎月発行。各号では、SICの活動状況報告とともに、以下に示すように有識者の方々に貴重な論説や寄稿を執筆頂いている。

- ・20号：論説「システムイノベーションセンター（SIC）3年目を迎えて」 木村英紀 先生（SIC）
- ・21号：論説「DXとシステム・アーキテクチャの諸課題」 亀田 浩樹 様（株式会社三菱UFJフィナンシャルグループ）
- ・22号：寄稿「Future of Energy：テクノロジーがもたらす価格破壊と近づく限界コストゼロ社会」 北澤 英理子 様（東京ガス株式会社）
- ・24号：論説「ニューノーマル時代に向けたIT企業の変革」 松本 隆明（SIC）
- ・25号：対談「新しい山に登ろう：齊藤センター長、木村副センター長」
論説「コロナ禍を日本復活の契機に」立松 博史 様（株式会社野村総合研究所）
- ・26号：論説「量子コンピューティングがもたらす社会システムの変革」 古田英範 様（富士通株式会社）

- ・27号：寄稿「変貌する科学技術と社会を歴史的視点から捉える」佐藤 靖 様（新潟大学）
- ・28号：論説「21世紀型の知識集約型企業を目指して：技術コンサルティングファームの軌跡」 服部 正太 様（株式会社構造計画研究所）
- ・29号：寄稿「個別分散協調系スマートシティのすすめ」 野城 智也 様（東京大学）
- ・30号：論説「システム志向の修得－システムイノベーションのケーススタディの試み－」 赤津 雅晴 様（株式会社日立システムズ）
- ・31号：寄稿「列車の安全を支える鉄道信号システムの革新」 松本 雅行 様（元JR東日本旅客鉄道株式会社）

論説・寄稿については、これまで執筆頂いた原稿を論説集としてまとめ、関係機関に配布した。

主に、非会員の一般向けとしてメールマガジン「SIC便り」を今年度も継続して定期的に発行するとともに、SICの紹介パンフレットを作成して広く配布することで新たな会員獲得に努めた。

10. 会員状況（12月1日現在）

① 正会員 30社

2021年度に、新たに、株式会社日立システムズ（4月）、東京ガス株式会社（9月）が加入。

② 学会会員 46名

2021年度新たに池田裕一先生（京都大学）と大村鐘太先生（桃山学院大学）が加入。

③ 個人会員 8名

以上

システムイノベーションセンター第3期決算書

2021年度第3回理事会資料

2021年1月1日～2021年12月31日

2022年2月18日

■収入予算

項番	収入科目	会員数	当初予算	期末実績	差異	備考
	(1) 年会費収入					
1	・正会員	30 社	¥17,200,000	¥17,500,000	300,000	
2	・学会会員	35 名	¥0	¥0	0	
3	・個人会員	8 名	¥40,000	¥40,000	0	
4	会費収入 小計		¥17,240,000	¥17,540,000	300,000	
5	(2) 受託収入 (公的機関からの調査委託費)		¥0		0	
6	(3) 講習会等参加費 (会員外からの収入含む)		¥1,000,000	¥814,780	▲ 185,220	
7	(4) 共同研究実施費用		¥0	¥0	0	
8	(5) 利息			¥230	230	
9	会費以外の収入 小計		¥1,000,000	¥815,010	▲ 184,990	
10	収入総計		¥18,240,000	¥18,355,010	115,010	

■実行予算

	支出科目	当初予算	期末実績	差異	備考
11	(1) 事業費 小計	¥22,400,000	¥9,571,731	▲ 12,828,269	
12	・総会運営	¥300,000	¥61,080	▲ 238,920	
13	・理事会・戦略委員会 運営費	¥200,000	¥41,500	▲ 158,500	
14	・実行委員会 運営費	¥100,000	¥0	▲ 100,000	
15	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費 6500000			0	
16	謝礼	¥2,500,000	¥841,005	▲ 1,658,995	
17	活動費	¥4,000,000	¥3,596,455	▲ 403,545	
18	・ケーススタディによるシステム構築講習会	¥1,500,000	¥738,720	▲ 761,280	
19	・システム塾運営費	¥500,000	¥0	▲ 500,000	次期持越し
20	・研修講座 講習会開催費	¥1,500,000	¥742,982	▲ 757,018	
21	・SIC産学交流会	¥800,000	¥350,295	▲ 449,705	
22	・SICフォーラム運営費	¥800,000	¥102,284	▲ 697,716	
23	・SIC国際シンポジウム運営費	¥4,000,000	¥0	▲ 4,000,000	次期持越し
24	・経営者研修講座 パネルディスカッション	¥3,000,000	¥823,750	▲ 2,176,250	
25	・木村副センター長 IEEE受賞記念講演会		¥144,900	144,900	
26	・広報活動 ニュースレター発行、HPによる情報発信、その他	¥800,000	¥362,218	▲ 437,782	
27	広報資料 (パンフレット等) 作成費	¥600,000	¥580,250	▲ 19,750	
28	動画等による広報強化 (Youtube等)	¥800,000	¥0	▲ 800,000	
29	SICの広報誌発刊	¥300,000	¥299,796	▲ 204	
30	・SIC書籍発刊		¥353,378	353,378	
31	・外部団体との連携活動の強化	¥100,000	¥0	▲ 100,000	
32	・SIC活動のシステム化(デジタル化情報) 基盤の高度化 (HP、Teams契約、ZOOM、MIRO 等のソフト活用、マージングリストの追加整備)	¥600,000	¥333,118	▲ 266,882	
33	・租税公課		¥200,000	200,000	
34	(2) 管理費 小計	¥10,071,748	¥9,224,443	▲ 847,305	
35	・事務所 賃貸・共益費	¥3,240,000	¥2,972,857	▲ 267,143	
36	・人件費	¥5,000,000	¥4,970,065	▲ 29,935	
37	・事務管理の充実 (備品類の整備等)	¥300,000	¥899,502	599,502	
38	・事務所 消耗品、その他諸経費	¥200,000	¥143,103	▲ 56,897	
39	・保守費	¥120,000	¥55,000	▲ 65,000	
40	・旅費・交通費 国内/海外	¥1,000,000	¥13,140	▲ 986,860	
41	・郵送費	¥50,000	¥81,229	31,229	
42	・通信費	¥120,000	¥43,519	▲ 76,481	
43	・雑費	¥41,748	¥9,068	▲ 32,680	
44	・振込手数料	¥0	¥36,960	36,960	
45				0	
46	(3) 予備費	¥1,400,000	¥0	▲ 1,400,000	
47	実行予算計 支出	¥33,871,748	¥18,796,174		
48	当期収支	▲ 15,631,748	▲ 441,164	15,190,584	

■期末正味財産 繰越金

49	2020年度 繰越金	¥20,531,748	¥20,837,100	
50	2021年度 収支額	▲ 15,631,748	▲ 441,164	
49	期末残高(繰越金)	¥4,900,000	¥20,395,936	

貸借対照表

令和3年12月31日現在

項番	資産の部		負債の部	
	科 目	金 額	科 目	金 額
1				
2	[流動資産]		[流動負債]	
3	現金・預金	¥22,645,334	未払金	¥2,554,750
4	未収会費	¥0	未払費用	¥0
5	未収金	¥0	前受金	¥0
6	前払金	¥0	前受会費	¥0
7	前払費用	¥0	預り金	¥0
8	仮払金	¥0	短期借入金	¥0
9				
10	流動資産合計	¥22,645,334	流動負債合計	¥2,554,750
11				
12	[固定資産]		[固定負債]	
13	(有形固定資産)		固定負債合計	
14	PCおよび電話機等	¥305,352		
15			負債合計	¥2,554,750
16				
17			正味財産の部	
18	(無形固定資産)	¥0	[指定正味財産]	¥0
19			寄付金	¥0
20				
21			[一般正味財産]	
22			前期繰越正味財産	¥20,837,100
23	固定資産合計	¥305,352	当期正味財産増減額	¥-441,164
24				
25			正味財産合計	¥20,395,936
26	資産合計	¥22,950,686	負債・正味財産合計	¥22,950,686

正味財産増減計算書

一般社団法人システムイノベーションセンター

2021年1月1日～2021年12月31日

項番	科目	2021年度予算	2021年度実績	2020年度実績	備考(増減)
1	I 一般正味財産増減の部				
2	1. 経常増減の部				
3	(1) 経常収益				
4	受取会費				
5	受取正会員会費	¥17,200,000	¥17,500,000	¥18,200,000	▲ 700000
6	受取個人会員会費	¥40,000	¥40,000	¥40,000	0
7	事業収益				0
8	受取参加費	¥1,000,000	¥814,780	¥575,000	239780
9	受取共同研究費	¥0	¥0	¥2,700,000	▲ 2700000
10	受取補助金等	¥0		¥0	0
11	受取寄付金	¥0		¥0	0
12	寄付金	¥0		¥0	0
13	雑収益			¥0	0
14	受取利息	¥0	¥230	¥143	87
15	経常収益計	¥18,240,000	¥18,355,010	¥21,515,143	▲ 3160133
16	(2) 経常費用				
17	事業費				
18	・総会運営	¥300,000			
19	・理事会運営費	¥200,000	¥102,580	¥424,705	▲ 322125
20	・実行委員会 運営費	¥100,000	¥0	¥16,500	▲ 16500
21	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費 5分科会			¥1,015,088	
22	謝礼	¥2,500,000	¥841,005		841,005
23	活動費	¥4,000,000	¥3,596,455		3,596,455
24	・ケーススタディによるシステム構築講習会	¥1,500,000	¥738,720		738,720
25	・システム塾運営費	¥500,000	¥0	¥0	0
26	・研修講座 講習会開催費	¥1,500,000	¥742,982	¥2,095,208	▲ 1,352,226
27	・SICフォーラム運営費	¥800,000	¥102,284	¥271,889	▲ 169,605
28	・SIC産学交流会運営費	¥800,000	¥350,295	¥172,800	177,495
29	・SIC国際シンポジウム運営費	¥4,000,000		¥0	0
30	・経営者啓発パネルディスカッション	¥3,000,000	¥823,750	¥0	#REF!
31	・木村副センター長 IEEE受賞記念講演会		¥144,900		144,900
32	・広報活動 ニュースレター プレスリリース	¥800,000	¥362,218	¥133,578	228,640
33	パンフレット作製	¥600,000	¥580,250	¥0	580,250
34	動画等による広報強化(Youtube等)	¥800,000	¥0		0
35	SICの広報誌発刊	¥300,000	¥299,796		299,796
36	・SICの書籍発刊費(送料込み)	¥100,000	¥353,378	¥152,730	200,648
37	・SIC活動のシステム化(情報基盤)の高度化 (HP、Teams契約、会計ソフトの導入、メールリストの追加整備)	¥600,000	¥333,118	¥149,820	183,298
38	・租税公課	¥0	¥200,000	¥1,500	198,500
39	・外部団体との連携活動の強化	¥100,000	¥0	¥0	0
40					
41	事業費計	¥22,500,000	¥9,571,731	¥4,433,818	5,137,913
42	管理費				0
43	・事務所 家賃共益費	¥3,240,000	¥2,972,857	¥2,157,503	815,354
44	・人件費	¥5,000,000	¥4,970,065	¥2,649,929	2,320,136
45	・什器備品	¥300,000	¥899,502	¥279,440	620,062
46	・消耗品等 その他経費	¥200,000	¥143,103	¥62,470	80,633
47	・保守費	¥120,000	¥55,000	¥83,000	▲ 28,000
48	・旅費・交通費 国内/海外	¥1,000,000	¥13,140	¥1,160	11,980
49	・郵送費	¥50,000	¥81,229	¥12,850	68,379
50	・通信費	¥120,000	¥43,519	¥59,651	▲ 16,132
51	・雑費	¥41,748	¥9,068	¥16,548	▲ 7,480
52	・振込手数料		¥36,960	¥41,150	▲ 4,190
53	管理費計	¥10,071,748	¥9,224,443	¥5,363,701	3,860,742

正味財産増減計算書

一般社団法人システムイノベーションセンター

2021年1月1日～2021年12月31日

項番	科目	2021年度予算	2021年度実績	2020年度実績	備考(増減)
54	予備費	¥1,400,000	¥0	¥0	0
55	経常費用計	¥33,971,748	¥18,796,174	¥9,797,519	8,998,654
56	評価損益等調整前当期経常増減額	¥-15,731,748	¥-441,164	¥11,717,624	▲ 12,158,787
57	当期経常増減額				0
58					0
59					0
60	2. 経常外増減の部				0
61	(1)経常外収益				0
62	経常外収益計	¥0	¥0	¥0	0
63	(2)経常外費用				0
64	経常外費用計	¥0	¥0	¥0	0
65	当期経常外増減額	¥0	¥0	¥0	0
66					0
67	当期一般正味財産増減額				0
68	一般正味財産期首残高	¥20,837,100	¥20,837,100	¥9,119,476	11,717,624
69	一般正味財産期末残高	¥5,105,352	¥20,395,936	¥20,837,100	▲ 441,163
70					0
71	II 指定正味財産増減の部				0
72	受取補助金等	¥0	¥0	¥0	0
73	一般正味財産への振替額	¥0	¥0	¥0	0
74					0
75					0
76	III 正味財産期末残高	¥5,105,352	¥20,395,936	¥20,837,100	▲ 441,163

附属明細書 財務諸表に関する注記

1 通帳残高と現金

法人設立前に準備委員会として作成した設立準備委員会名義の口座と

法人設立後に作成した法人口座

2021年12月31日時点での通帳残高,および現金残高は下記の通り

①SICセンター預金口座	¥22,618,991
②設立準備委員会口座	¥25,193
③現金残高	¥1,150
計	¥22,645,334

2 繰越金の扱い

次年度への繰越金については、前年の2020年度に予期せぬコロナ禍により業務が一時的に中断して生じた一時金であり、それを2021年度に引き継いでいるものである。今後は積極的な活用について検討していく。

3 備品

オンライン形式やハイブリッド形式でのイベント開催のためのSIC備品として購入した主な品目は下記の通り。

PC	1台
モバイルディスプレイ	4セット
ビデオカメラ	2セット
カメラ三脚	1セット
YVC1000 マイクセット	1セット
その他、ハイブリッド映像システムに要する備品1式 LANケーブル等	1式

以上

SIC財産目録

科目	購入日	品名	備考
事務所備品	2019	デスクトップPC&LANケーブル	
事務所備品	2019	電話機 & PCソフト (office PPT)	
事務所備品	2019	パイプいす × 2脚	
事務所備品	2019	LANケーブル 5m	
事務所備品	2019	ノートPC	
事務所備品	2019	USBカメラ	
事務所備品	2019	USBケーブル	
事務所備品	2019	Wifiルーター	
事務所備品	2019	書棚	
事務所備品	2019	ICレコーダー	
事務所備品	2020	プロジェクター	
事務所備品	2020	USBカメラ	オンラインミーティング備品
事務所備品	2020	JABRA	同上
事務所備品	2020	カメラ三脚	同上
事務所備品	2020	ヘッドセット	同上
事務所備品	2020	ワイドレンズカメラ(サンワサプライ)	同上
事務所備品	2020	ノートPC	同上
事務所備品	2021		
事務所備品	2021	ノートPC	
事務所備品	2021	モバイルディスプレイ	ハイブリッド環境構築備品
事務所備品	2021	ビデオカメラ 2セット	同上
事務所備品	2021	カメラ三脚	同上
事務所備品	2021	YVC1000 マイクセット	同上
事務所備品	2021	その他 ハイブリッド映像システムに要する備品 1式 LANケーブル 電源ケーブル等	同上

監査報告書

一般社団法人システムイノベーションセンターにおける 2021 年度（令和 3 年度）の事業報告書、貸借対照表、正味財産増減計算書、並びに附属明細書は、監査の結果、当法人の状況を正しく示し事実と相違ないことを認めます。

2022 年（令和 4 年）3 月 15 日

一般社団法人システムイノベーションセンター 監事 白井 俊明 

監事 船橋 誠壽 

【議題3：報告事項】 2021年度 事業計画及び予算の報告の件
2021年度の事業計画及び予算について報告する。

添付資料

3a) SIC 次期中長期計画案

3b) 2022 年度事業計画 p. 14

3c) 2022 年度予算書 p. 17

システムイノベーションセンター 第二次中期事業計画

2022年1月26日 v.2.6

Copyright 2021 System Innovation Center

SIC事業のコンセプト

SICの3本の柱

- 企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援
- 優れた社会システムの実装に向けた推進支援
- 人材育成

2019年

日本のシステム化の揺籃期を担う 初動組織となる

【第一次中期計画】

- <システム化力による産業力強化>
- <日本のシステム化のグランドデザイン提示>
- <システム化人材育成強化>
- <センター体制強化>

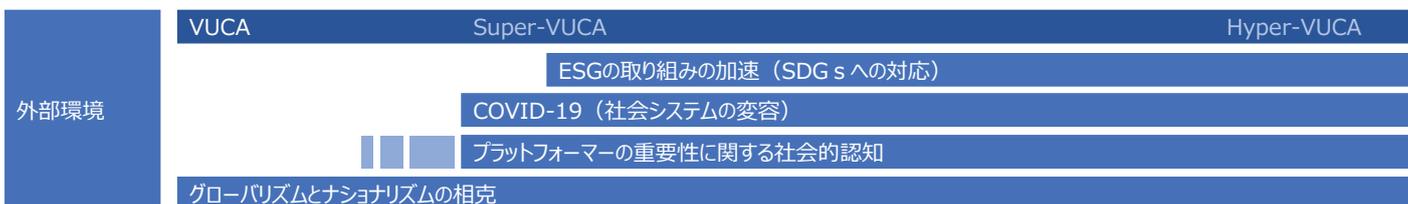
継続と深化

2022年

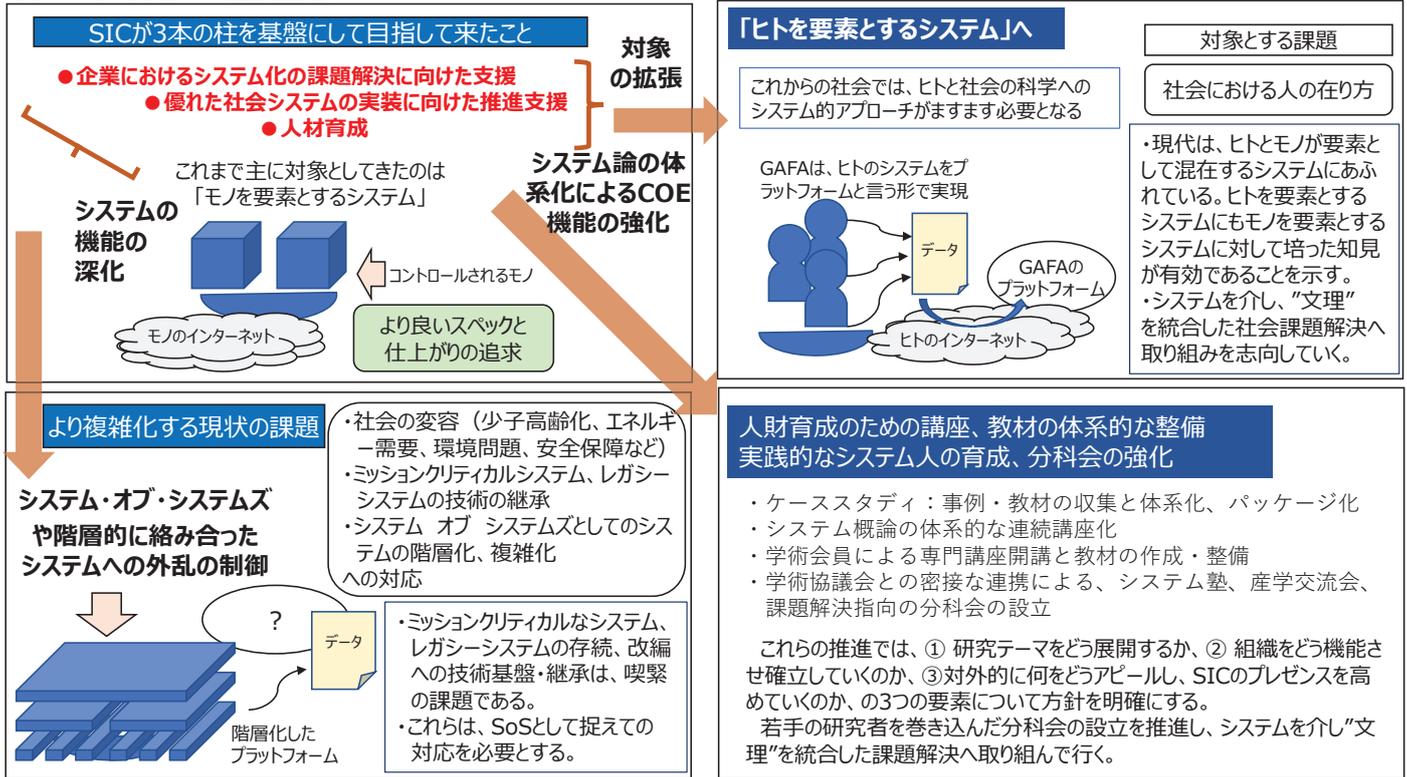
日本が直面する課題の達成に向けて システム化の有効性を社会に示す 【第二次中期計画】

課題

- ・モノを要素とするシステムから人を要素とするシステムへ
- ・学との連携を強化（社会システム科学の創設）
- ・人材育成のプログラムの構造化（システム化講座の体系化・教材整備、ケーススタディ講座のパッケージ化、など）
- ・SoS、ミッションクリティカルシステムなど、現実の社会システムの実装課題への対応
- ・少子高齢化など、喫緊の社会課題の対応へのシステム化アプローチの有効性を示す



【第二次中期計画への活動の展開】



【第二次中期計画】

	4年度	5年度	6年度
1. 企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援 【啓発・ネットワーキング】 (随時) SICフォーラム(6回/年) 産学交流会2回/年	経営とマネジメント関連のテーマ ...	行政と産業関連のシステム化テーマ ...	社会制度のシステム化 ...
2. 優れた社会システムの実装に向けた推進支援 分科会の活動	システムの社会実装に向けた条件整備		
	流通とシステム化分科会 システムヘルスケア分科会 システムモビリティ分科会 デジタルエコノミー分科会	SoS分科会(仮) ミッションクリティカルシステム分科会(仮) システムレジリエンス分科会(仮)	
3. 人材育成 人材育成協議会にて詳細を計画	ケーススタディ講座(1回/半期) (2年目からは、1回/半期) システム塾(1回/半期) 現代システム科学概論(9回/年) システム科学技術講座(6回/年) (学会会員による専門講座) 経営者研修(1回/年)		
4. その他	ニューズレター(1回/月) 国際シンポジウム(1回/2年) 国内シンポジウム(1回/2年) システム人交流会 外部団体との連携	システム化のCOEを目指した普及活動の展開	
	▲RRI、DADCとの連携 ▲連携協定の拡大		

参考 中期事業計画策定にあたって

【理念の継承と新たな展開】

SICの基盤としてきた3本の柱（●企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援、●優れた社会システムの実装に向けた推進支援、●人材育成）に沿っての活動を一層推進していくために、そのそれぞれの課題と目指す方向を次のように定める。

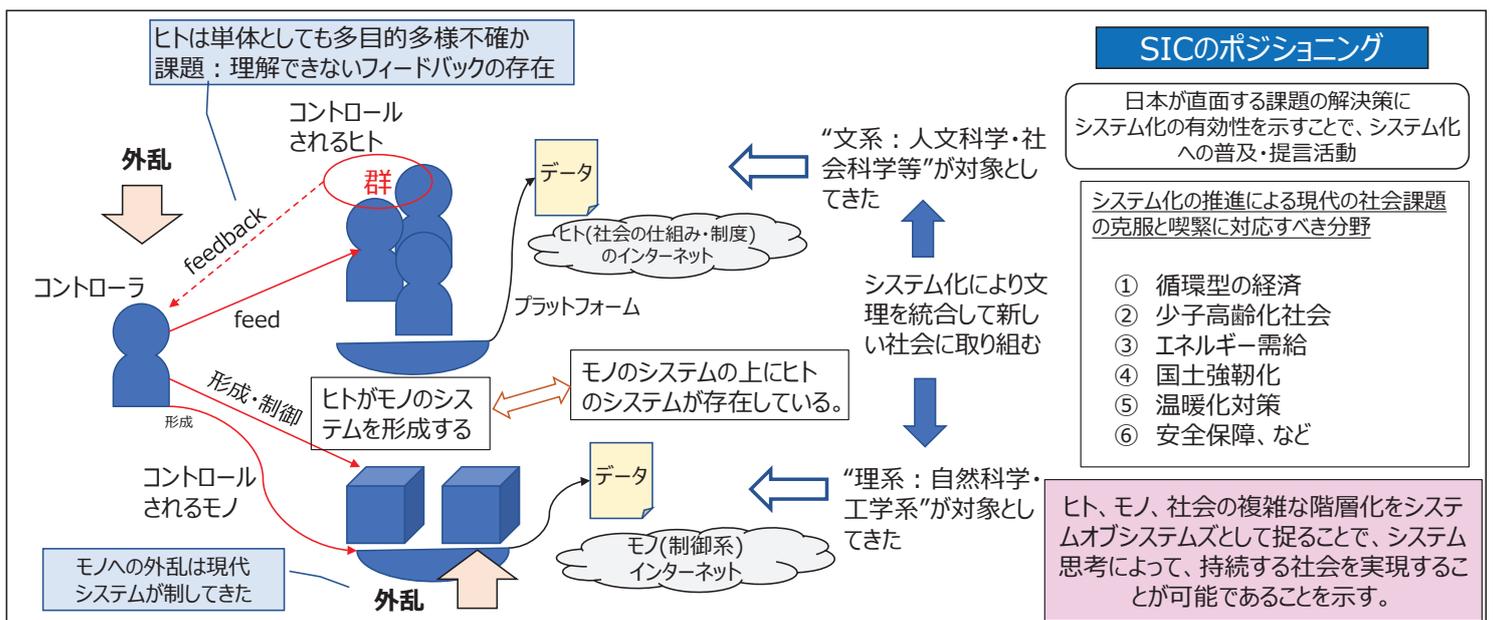
- ・モノを要素とするシステム（工業製品、インフラなど）から人を要素とするシステムへ重点をシフトし、そこでのシステム化の課題を掘り下げ必要な提言を行う。
- ・社会の変容（少子高齢化、エネルギー需要、環境問題、安全保障など）、ミッションクリティカルシステムやレガシーシステムの技術の継承、システムオブシステムズとしてのシステムの階層化、複雑化、などへ対応するシステムの機能の深化を図る。
- ・人材育成のための各種の講座、教材の体系的な整備と実践的なシステム人の育成、および、新たな社会ニーズに応える分科会の設立による、システム論の体系化を図り、SICの体制の強化をめざす。

【重点的な方針】

- ・学との連携を強化する。学術協議会への、社会科学（社会ネットワークや計算社会学などの新興分野や組織科学）の研究者の参加を呼びかけ、システム科学としての学術基盤を拡充する。また、学会員によるそれぞれの専門分野についての、企業会員向けの講座を定期的で開催する。
- ・分科会などでの具体的なシステム構築の活動（特に、社会システムの実装における課題の整理とPOC検証）を奨励し、SoSをベースとしたシステムの実例提示（ミッションクリティカルシステム、多種の輸送手段を統合したPhysical Internetなど）とその構築などの推進を図る。
- ・ケーススタディ講習会で提出されたケースを提出企業のシステム化に結び付ける。
- ・人材育成のプログラムを、「人を要素とするシステム構築」の教育を柱とした大学学部並みに構造化した形で、社会人教育としてセンター内外に提供する。

Copyright 2021 System Innovation Center

「ヒトの価値」中心のシステムの目指す姿



3b)

2022年度の事業計画

SIC発足以来3年を経て、それなりに諸活動がセンター内に定着し、安定した運営が可能になってきた。しかし、センターが掲げるシステム化の推進による産業競争力回復のための説得力の具体的な方策を提示することが出来ているとは言い難い。この課題に、これまでの実績を踏まえて解答を与えるのが今年目標である。そのための活動として次の三つ（A1～A4）を行う。

（A1）新しい分科会の設立

現在4つの分科会が活動中であるが、そのうち3つは本年前半までに終了の見込みである。新しい分科会として

- ① システムオブシステム（SoS）分科会（仮称）
- ② システムを媒介とした文理融合推進分科会（仮称）

の設立を目指したい。①はSoSが実体とニーズを抱えた恒常的な概念であり、システム化推進のための重要なコンセプトでもあることから。SoSの概念、その具体的な実現の可能性に挑戦する分科会である。②は「モノを要素とするシステム」に主として取り組む「理」のサイドのシステム構築の経験と成果を「人を要素とするシステム」に展開し、システム化に関連して生じる組織、企業文化、現場力などの人間的課題を掘り下げ、議論、提言する分科会である。また、「デジタルエコノミー分科会」の後続分科会として

- ③ NFT とシステム分科会（仮称）

の創設も模索したい。

（A2）「ケーススタディによるシステム構築講習会」のパッケージ化

ここの講習会はこれまで単発で行われてきたが、システム構築のスキルの獲得には単発の講習を受けただけでは心もとない。そこでこの講習会を、いくつかのシステムに対する講習会を継起的に行い、それに参加することを通じてシステム化の総合的なスキルを獲得できるようにする。またこの講習会の延長として、各企業個別のシステム化に貢献する道を探っていききたい。現在会員企業にシステム構築のケース提供をお願いしている。

（A3）二回目の「経営者研修会」を「システム」を背景理念として実施する

10月に開催した「経営者研修会」はDX全般をターゲットとした「無色」のテーマであったが、今年の秋に開催を予定している第二回の研修会では、システムを少し強調するテーマにしたい。

（A4）人財育成のプログラムの強化

これまで単発で実施されてきた講座を、一貫したカリキュラムの下で体系的に実施する。これについては「現代システム科学講座」として年間9回の連続講義会がすでに人財育成協議会で企画され、パンフレットの配布と聴講者の募集が開始されている。第一回は4月23日の予定。

また、学術協議会の先生方による研究紹介と会員企業との交流を深めるための「特別講義」の企画がすでに実施されつつある。今年度は全体で10回程度の開催を予定している。

一方では、これまでのセンターの恒常的な活動を下支えし、センター会員企業の間での交流と一体感を増すため、定例の活動にも必要な改善とレベル向上を達成することが必要である。そのため、これまでの実行委員会主催の産学交流会とフォーラムの継続的实施に加えて、以下の活動（B1～B3）を行う予定である。

（B1）新規会員の勧誘活動を強化する。

昨年の秋成功裏に行われた「経営者講習会」での受講者（30社）を中心に、新規会員の獲得に向けた活動をこれまで以上に強力に行う。

（B2）講演会と親睦パーティ「システム人交流会」の開催

人財育成協議会による研修講座にこれまで参加した人（延べ約350人）を招待して、後援会と交流会を行う。

（B3）会員企業のシステム化ニーズの探索

昨年行われた会員企業を訪問してのセンターへのニーズと期待についての聞き取りを、今年度も継続して行っていきたい。

以上

第3期（2021年度）第3回 SIC 理事会（電子メールによる見なし理事会）

2022年度予算書

2022年1月1日～2022年12月31日

2021年度第3回理事会資料

2022/2/18

■収入予算

項番	収入科目	会員数	2021年度実績		2022年度予算	備考
	(1) 年会費収入					
1	・正会員	30社	¥17,500,000	32社	¥17,200,000	4社会費80万(努力目標)を含む
2	・学会会員	45名	¥0	45名	¥0	
3	・個人会員	8名	¥40,000	8名	¥40,000	
4	会費収入 小計		¥17,540,000		¥17,240,000	
5	(2) 受託収入(公的機関からの調査委託費)		¥0		¥0	
6	(3) 講習会等参加費(会員外からの収入含む)		¥814,780		¥1,000,000	
7	(3) 共同研究実施費用		¥0			
8	(4) 利息		¥230			
9	会費以外の収入 小計		¥815,010		¥1,000,000	
10	当期 収入総計		¥18,355,010		¥18,240,000	

■実行予算

	支出科目		2021年度実績		2022年度予算	
11	(1) 事業費 小計		¥9,571,731		¥12,490,000	
12	・総会運営		¥61,080		¥300,000	
13	・理事会・戦略委員会 運営費		¥41,500		¥200,000	
14	・実行委員会 運営費		¥0		¥100,000	
15	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費					
16	分科会謝礼		¥841,005		¥800,000	
17	活動費		¥3,596,455		¥1,550,000	
18	・SIC 活動成果発表会		¥0		¥600,000	ハイブリッド開催
19	・ケーススタディによるシステム構築講習会		¥738,720		¥1,200,000	ケース事例 3件
20	・システム塾運営費		¥0		¥500,000	年1回
21	・システム人交流会		¥0		¥600,000	ハイブリッド開催
22	・研修講座 講習会開催費		¥742,982		¥800,000	
23	・SIC産学交流会運営費		¥350,295		¥200,000	年2回
24	・SICフォーラム運営費		¥102,284		¥300,000	年6回
25	・SIC国際シンポジウム運営費		¥0		¥3,000,000	2022年度開催
26	・経営者研修講座 パネルディスカッション		¥823,750		¥1,000,000	継続テーマ
27	・木村副センター長 IEEE受賞記念講演会		¥144,900			
28	・広報活動 ニュースレター発行、HPによる情報発信、その他		¥362,218		¥400,000	
29	広報資料(パンフレット等)作成費		¥580,250		¥200,000	
30	広報強化 動画等(Youtube等)による		¥0		¥0	
31	SICの広報誌発刊		¥299,796		¥200,000	
32	・SIC書籍発刊		¥353,378			
33	・外部団体との連携活動の強化		¥0		¥100,000	
34	・SIC活動のシステム化(デジタル化) 情報基盤の高度化(HP、Teams契約、ZOOM、MIRO等のソフト活用、メーリングリストの追加整備)		¥333,118		¥300,000	
35	・租税公課		¥200,000		¥140,000	
36	(2) 管理費 小計		¥9,224,443		¥9,310,000	
37	・事務所 賃貸・共益費		¥2,972,857		¥3,240,000	
38	・人件費		¥4,970,065		¥5,000,000	
39	・事務管理の充実(備品類の整備等)		¥899,502		¥400,000	
40	・事務所 消耗品、その他諸経費		¥143,103		¥320,000	
41	・保守費		¥55,000		¥60,000	
42	・旅費・交通費 国内/海外		¥13,140		¥50,000	
43	・郵送料		¥81,229		¥150,000	
44	・通信費		¥43,519		¥60,000	
45	・雑費		¥9,068		¥30,000	
46	・振込手数料		¥36,960			
47	(3) 予備費		¥0		¥440,000	
48	実績及び実行予算計		¥18,796,174		¥22,240,000	
49	当期収支損益		(¥441,164)		(¥4,000,000)	繰越金を充当

■期末正味財産(繰越金)

50	2021年度 期首残高 / 2022年度 期首残高	¥20,837,100		¥20,395,936	
51	2021年度 収支額 / 2022年度 収支額	(¥441,164)		(¥4,000,000)	
52	期末正味財産 残高(繰越金)	¥20,395,936		¥16,395,936	

注記：2022年度予算は400万の繰越金を活用する。結果として期末正味財産を削減する。

3b)

【報告事項】 規定改訂の件

(附) システムイノベーションセンター 現況 (2022年1月現在)

a1) 会員の状況

2022年3月29日の会員の状況は下記の通り。

正会員 30社 個人会員 8名 学会会員 46名

a2) 正会員

NO	SIC会員企業名	備 考
1	KDDI株式会社	
2	NTTコミュニケーションズ株式会社	
3	NTTコムウェア株式会社	
4	SCSK株式会社	
5	株式会社JSOL	
6	株式会社NTTドコモ	
7	株式会社クエスト	
8	株式会社構造計画研究所	
9	株式会社テクノバ	
10	株式会社東芝	
11	株式会社ニューチャーネットワークス	
12	株式会社野村総合研究所	
13	株式会社日立産業制御ソリューションズ	
14	株式会社日立システムズ	
15	株式会社日立製作所 研究開発グループ 社会システムイノベーションセンタ	
16	株式会社日立物流	
17	株式会社三井住友銀行	
18	株式会社三菱UFJ銀行	
19	損害保険ジャパン株式会社	
20	デンソー株式会社	
21	東京ガス株式会社	
22	トヨタ・リサーチ・インスティテュート	
23	日鉄ソリューションズ株式会社	
24	ファナック株式会社	
25	富士通株式会社	
26	マツダ株式会社	
27	三井不動産株式会社	
28	三菱重工業株式会社ICTソリューション本部 EPI 部	
29	三菱電機株式会社	
30	横河電機株式会社	

a3) 学術協議会

学術協議会		
主査	青山和浩 教授	東京大学、システム創成学専攻
副主査	白坂成功 教授	慶應義塾大学、システムデザイン&マネジメント研究科

メンバー		
関西大学	黒江康明 客員教授	システム学、制御理論とその応用、知能情報処理
京都大学	榎木哲夫 教授	システム工学,機械工学,人間機械系,デザイン学
	喜多 一 教授	社会シミュレーション、情報教育
	池田裕一 教授	データ科学、ネットワーク解析、政策科学
慶應義塾大学	中野 冠 教授	システムデザイン&マネジメント、デザイン工学
	前野隆司 教授	システムデザイン&マネジメント、人間工学
	西村秀和 教授	システムデザイン&マネジメント、モデル学
	滑川 徹 教授	分散協調制御、超Smart City研究
高橋大志 教授	ビジネススクール、金融工学	
神戸大学	貝原俊也 教授	エネルギーシステム論、情報科学
東京国際大学	松尾博文 教授	経営学,オペレーションズ・マネジメント
都立産業技術 大学院大学	川田誠一 教授	システム工学
	橋本洋志 教授	サービス工学、データサイエンス
	瀬戸洋一 教授	サイバーセキュリティ、リスクマネジメント
	中鉢欣秀 教授	環境情報学、ソフトウェア工学
成蹊大学	池上敦子 教授	OR、組合せ最適化
政策研究大学院大学	土谷 隆 教授	最適化アルゴリズム、統計解析
筑波大学	倉橋節也 教授	経営システム科学、シミュレーション経営学
東京大学	吉村 忍 教授	システム創成学
	梅田 靖 教授	精密工学、サステイナブル工学
	太田 順 教授	精密工学専攻 人工物工学研究、ロボット学
	古田一雄 教授	技術経営戦略、レジリエンス工学
	松尾 豊 教授	人工知能、人工物工学
	山本義春 教授	教育生理学
	西成活裕 教授	数理創発システム、渋滞学
	藤田政之 教授	制御工学
東京工業大学	寺野隆雄名誉教授	AI、システム理論
	小野 功 准教授	進化計算・最適化
	鈴木羽留香研究員	MOT
東京農工大学	澁澤 栄 特任教授	リアルタイムセンシング、IoT精密農業、学習支援
統計数理研究所	椿 広計 所長	品質管理、統計科学
	田村義保名誉教授	計算統計学、時系列解析
一橋大学	鷺田祐一 教授	経営管理専攻、マーケティング、未来洞察
北陸先端科学技術 大学院大学	小坂満隆名誉教授	サービス工学、システム科学
	神田陽治 教授	知識マネジメント、社会情報工学
	永井由佳里 教授	知識工学、ヒューマンライフデザイン
横浜国立大学	田名部元成 教授	経営システム科学,マネジメント・サイエンス
早稲田大学	岸 知二 教授	ソフトウェア工学
	高橋真吾 教授	経営システム,シミュレーション
	鷺崎弘宣 教授	人間行動モデル、シミュレーション
青山学院大学	玉木欽也 教授	グローバル製品サービス戦略
学習院大学	河合亜矢子 教授	サプライチェーンマネジメント
芝浦工業大学	後藤裕介 准教授	意思決定、シミュレーション
埼玉学院大学	上村謙一 准教授	ITサービス・オペレーションズ・マネジメント

2021年度定時総会（2022年3月29日）

実行委員会メンバー（2022年度）

区分	氏名	所属	備考
委員長	松本 隆明	(独) 情報処理推進機構	理事
委員	中野 一夫	株式会社構造計画研究所	正会員
委員	五味 史充	SOMPO システムズ株式会社	正会員
委員	藤野 直明	株式会社野村総合研究所	正会員
委員	宮田 一雄	富士通株式会社	正会員
委員	川西 博実	マツダ株式会社	正会員
委員	武田 保孝	三菱電機株式会社	正会員
委員	澤野井 明裕	三菱重工業株式会社	正会員
委員	眞鍋 了	KDDI 株式会社	正会員
委員	田島 正憲	株式会社東芝	正会員
委員	水上 潔	株式会社日立製作所	正会員
委員	小林 俊介	株式会社デンソー	正会員
委員	高田 智規	NTT コミュニケーションズ株式会社	正会員
委員	青山 和浩	東京大学	学会会員
委員	寺野 隆雄	千葉商科大学	学会会員
委員	新谷 勝利	個人会員	
委員	大道 茂夫	個人会員	
委員	出口光一郎	個人会員	
委員	高木 真人	個人会員	
	齊藤 裕	SIC 事務局	センター長
	木村 英紀	SIC 事務局	副センター長
	久保 忠伴	SIC 事務局	事務局員